

TRAVELER'S PRESS

わたしが
薦める
園の本

NARASHINODAI
KINDERGARTEN
www.narashinodai.ed.jp

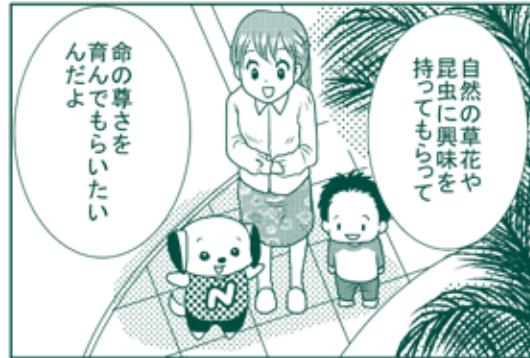
01

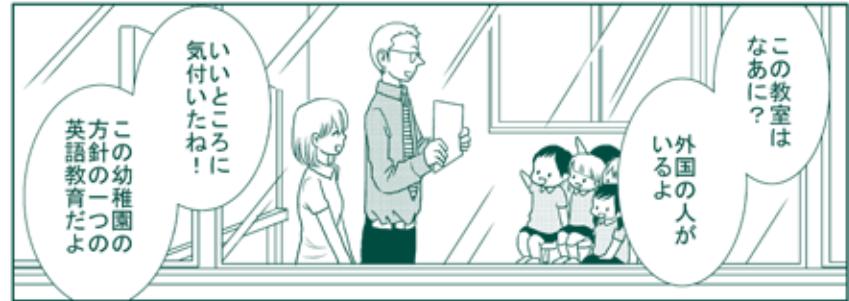


TRAVELER'S PRESS 01

目 次

- 02 ようこそ！習志野台幼稚園へ！
- 07 創立から現況まで
- 08 園長の思い
- 09 良いしつけとは
- 11 Activities (正課活動)
- 13 強い体とは
- 13 おわりに





創立から現況まで



1. 開園当時

昭和42年4月から習志野台団地の入居が開始されましたが、当園はその前年、昭和41年4月1日に開園致しました。当時はまだ北習志野駅もなく（同駅は翌年4月に新設）全くの雑木林の中に整地して園舎を建て、習志野台団地の第1号建築物でした。園からは間近に成田街道の自衛隊を眺めることができました。

2. 船橋市並びに公団の配慮により、現在の比較的便利な地に広い敷地（1,200坪・通常園の2倍位の広さ、園舎も1,000余坪と県内でも最大級）を頂き、園内には大樹が残されています。

園舎も当初は200坪程度でしたが、その後5回の増築を重ねてきました。新園舎は平成25年7月に1期工事、26年3月に2期工事が終了しました。

園児数も開園当時は、80余名でしたが、現在では、



園長の思い

習志野台幼稚園は、昭和41年開園以来、「明るく元気に伸び伸び！」を教育理念とし、園児一人一人と心の通じ合う幼児教育を目指してきました。時代の進展に伴い、教育内容、指導方法は当然変化します。しかし、そういう中でも変わるもの変わらないものがあります。子ども達と関わる全ての人たちがそのことを見極めなければなりません。

一番大切なものは何かという冷静な判断、選択をし、子ども達にとってより良い環境を与えることが子ども達の良い成長へつながっていくと考えます。

お子さんの成長にとって、幼稚園に入る時期は大きな節目にあたります。両親に保護され、甘えられる家庭から教師や同年代の仲間がいる集団での経験を通して、精神、生活的自立ができるように育てられ、社会への第一歩を踏み出すのです。

幼稚園は小さな「社会」ですが、初めての集団生活が行われる場所でもあります。もしかしたら、その後の人生に大きく関わる経験、体験になるかもしれません。それが私達幼稚園教諭の使命と考えています。

どの子も日本の大事な宝です。ですから、私達大人は子ども達がより良い環境の中で成長できるよう手助けしなければなりません。両親も教師もお互いに協力し合い、子ども達へ愛情をいっぱい注ぎます。

より。愛された子は自立し、他の人たちにも愛情を「与える人間」になる」とでしょう。

畠志野台幼稚園はしつかりとした「しつけ」をし、社会のルールや文化を子ども達に教え伝え、集団の中で社会性を身に付けるよう指導していきます。

良いしつけとは

母親はお腹の中にいる我が子に話しかかる」とがよくあります。生まれてはいないのに、既に母親としての愛情が芽生えているからです。

赤ちゃんが生まれてすぐに「さあ、しつけをしなければ…」といふ親はいません。天真爛漫な赤ちゃんは生まれてくれたことに感謝なのですから。自由奔放で生まれた赤ちゃんは日々成長します。このまでは単にわがままな子どもに育ってしまいます。その基礎になるのが「態度教育」です。

態度教育とは「挨拶」「返事」「履物をそろえる」「姿勢を正す(立腰)」「食事のマナーを身に付ける(食育)」を体系的にまとめた教育です。これらを実践する」とで子どもの心がきたえられ、人としての基礎がしつかりと身に付きます。

①挨拶

挨拶は心を相手に向ける」という意義があります。田と田を合わせると「より愛される実感を感じる」のです。ポイントは体を相手に正対する」とです。そして、足をそろえて一齊に行います。かかとをつけ、つま先を60度あけることが理想です。

②返事

返事は「ハイー」です。漢字にすると拝啓の「拝」、人を敬う気持ちが大切です。「ハイ」という返事は心の受け皿、コップを上に向かせます。つまり「素直」の元が「ほい」の返事です。親がお手本を示しましょう。

③履物をそろえる

履物をそろえるといふことは、物と心のしまりをつける」とです。けじめです。物事の最後が大切です。末を乱す人はしまりの悪い人です。このしまりを履物指導から身に付けていきます。ポイントは両手で行うことです。

④姿勢を正す(立腰)

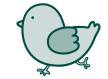
立腰は心と体を「ノントロールし、心を強くしていきます。気持ちを切りかえる力、目の前にことに集中する力が身に付きます。皆さんもぜひともに家庭で夕食の前に1秒でいいですから立腰を実践しましょう。毎日の継続が大切です。

⑤食事のマナー

食は命への感謝が中心にあり、何を食べるか、いかに食べるかです。相手に不快を与えない食事のマナーを教えてあげましょう。食事は愛情です。食の手抜きは愛情不足になります。まずは、親が食に关心を持ちましょう。



アクティビティ（正課活動）



① イングリッシュ

国際社会の中の日本人として様々な文化に「ふれあう」とは大切なことであると考えます。英語に「ふれあい、興味を示し、遊びの中で他言語を学ぶ」ことが出来ればと思います。当学園ではピヨピヨクラブ（2歳児）～K3（年長児）の園児全員が、複数名のネイティブ職員達によるレッスンを週に複数回受けることができます。

② サイバードリーム（イングリッシュ）

K1（年少）～K3（年長）は毎日の生活の中で、英語教材「サイバードリーム」を活用し、幼児の頃から英語のシャワーを浴びています。

TVモニターを通したネイティブ講師による動物、果物、国、乗り物、家族、おもちゃなど、トピックに併せて単語や会話、歌などのセッションで構成されています。

③ アート



創造性を引き出し、その子の持っている感性が充分に表現出来るよう、毎年幼児画を指導されているアトリエスタの指導により、豊かな個性を伸ばします。

④ ジムナスティック

『体力づくり』を基本に、健康で逞しく育てる事を目的としています。体操専門の講師による指導のもと、俊敏で且つ、自己の身の安全を管理できる能力を養っていきます。また、近隣のスポーツクラブと業務提携をし、年間を通して全天候型のプール指導を行っています。K2（年中）～K3（年長）

⑤ 素度教育（しつけ教育）

当幼稚園では①挨拶②返事③はきもの④立腰⑤食育といった、教育の基礎と呼ばれている5つの基本を子ども達に指導し、職員達も毎日の朝礼を自ら行い、学んでいます。

⑥ ミュージック

音感は5歳までが大切です。この時期により良い音楽を耳にし、身に付けることは豊かな感性を育てます。

⑦ インテリジエンスプレイ（知能遊び）

遊びの中から自然に思考力、判断力が身に付きます。自分で考えられる子どもは積極的に能力を發揮します。

⑧ リトミック

心も体もリズミカルにして、自分で何事もコントロール出来るようにリズム感を養いながら集中力、反射神経を強くします。



強い体とは

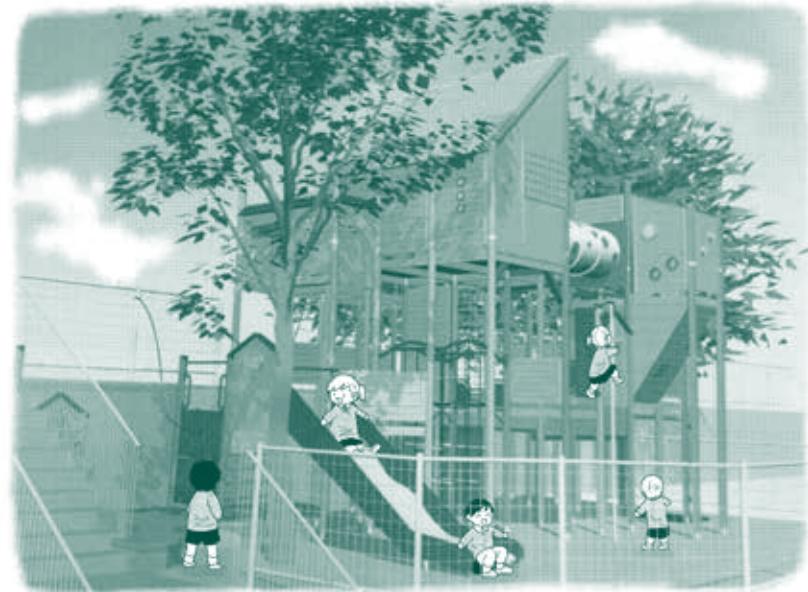
最近の日本人の体格は大きくなりましたが、体力の低下は恐るべきものがあります。『逞しい子ども』をつくることこそ、園の第一使命であります。

近年、「危険」だからという理由で公園や園庭等から遊具が無くなっています。子ども達の体力低下は学力の低下にもつながっています。

このため、当園の園庭には様々な年齢に対応した遊具を設置することにより「体力向上」に力を注いでいます。遊ぶことにより、ちょっととした擦り傷、切り傷は当たり前と考えて温かく見守ってあげましょう。

おわりに

幼稚園は、幼児が保護されている親から一歩踏み出して社会になじみ、自分の力で生きていく方指向性を導いてくれるところです。



我が家子を幼稚園へ入れようと決心したのならば、その気持ちに自信を持って幼稚園へ送り出して下さい。幼稚園の教育目標は、「明るくのびのびと行動できる子。自分で考え、自分で行動できる子。いろいろなものに興味を持ち、自分の意見や考えを表現できる子、強い体と良いしつけ」です。これらの目標を卒園までに達成でき、喜んで通園する場所が「幼稚園」なのです。

幼稚園へ行きたくないと言ふことがあります。でも、幼稚園は試練の場所ではないということをお父さんやお母さんは、入園前に話をして頂きたいと思います。泣くことは、決して悲劇的なことではありません。自己主張として捉えましょう。

「幼稚園は楽しいところ、やさしい先生達がいるところ」です。

これからは、家での子育てから幼稚園という社会の力を借りて、新たな第一歩を踏み出す時期だとお考え下さい。そして、子育てを担うお母さんと協力するお父さんの力も大切です。お子さんの入園にあたり、ご両親もあらたに子育てのスタートを切る時期になつたと見つめ直し、親子共々充実した毎日を送って頂きたいと思います。

最後に、家族が健康で笑顔であればそれが一番です。幼稚園で培った「生きる力」「愛される実感」「しつけ」を元に子ども達の成長を応援したいと思います。